

別紙 2

オウム真理教（教団）の活動状況

1 教団の概要

(1) 主流派及び上祐派について

教団は、麻原彰晃（以下「麻原」という。）に対する絶対的帰依を明示的に強調する主流派（「Aleph」、「山田らの集団」など）と、麻原に絶対的に帰依しながらも、外形上、麻原の影響力を払拭したかのように装い活動する上祐派（「ひかりの輪」）に分かれて活動している。

(2) 信徒数

現在、教団は、国内に約1,650人、ロシア国内に約460人の信徒を擁している。特に、主流派は、組織的な勧誘活動を積極的に展開することで、毎年100人程度に上る新規信徒を獲得している。

(3) 教団の資産

教団の資産（現金・預貯金・貸付金）については、本年1月末時点における総額が約10億9,300万円である。教団の資金源は、在家信徒を対象とした「集中セミナー」など各種イベントの参加費や布施によるものであり、これらの資金を継続的に獲得することで、多額の資産を保有する状況にある。

(4) 教団の施設

国内における教団の拠点施設数は、15都道府県に34か所ある。

2 主流派の活動

主流派は、「集中セミナー」や麻原の誕生日を祝う「生誕祭」などの各種イベントを開催し、不眠不休で修行を行わせたり、麻原の偉大性を強調する説法を行うなどして、麻原に対する絶対的帰依を扶植する指導を継続している。

また、主流派は、新規信徒の獲得に向けた勧誘活動を組織の重要な取組と位置付け、教団名や宗教色を秘匿しながら、全国的、組織的な勧誘活動に取り組んでいる。

なお、京都府警察は、2月19日、「Aleph」の出家信徒の女性が、平成27年3月、「Aleph」の施設として使用する目的を偽って京都市内のマンションの一室を不正に賃借したとして、同マンション、東京都や京都府、大阪府の教団施設等を家宅搜索し、そ

の後同人を詐欺容疑で逮捕した。

このほか、2月2日、地下鉄サリン事件や松本サリン事件などの被害者や遺族らを支援する「オウム真理教犯罪被害者支援機構」は、「Aleph」に対し、賠償金約10億円の支払いを求めて東京地方裁判所に提訴した。

3. 上祐派の活動

上祐派は、外形上、麻原の影響力を払拭したかのように装う“麻原隠し”の取組を推進してきたところ、「ひかりの輪」の安全性を強調するブログの開設や上祐史浩の各種トークイベント等への出演などにより、麻原からの脱却を強調するなどしている。

一方で、上祐派は、依然として、麻原と関係のある仏画を施設内に掲示しているなど、今なお麻原の影響下にある実態が確認されている。なお、上祐派は、毎年3回、在家信徒向けに集中セミナーを開催して信徒教化を行っており、昨年12月下旬から本年1月下旬にかけて、「年末年始集中セミナー」を開催した。

以上